



「中干し」を実施しましょう!!

5月は曇りや雨の日が多く、日照時間が少なかったことから、茎数は少なめに経過しました。今後は気温が高く推移する予報が出ており、急激に茎数が増加する可能性があります。過剰分げつによって籾数が多くなりすぎると「乳白粒」や「くず米」の発生が多発します。まだ中干しを実施していない圃場は早急に中干しを行ってください。

中干し終了時期 ゆめみづほ：6月30日頃、コシヒカリ：7月10日

うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~6	1. 播種量（うす播きの励行） 2. 育苗日数（健苗の育成） 3. 植付本数（3~4本植えの励行） 4. 適正な栽植密度（優良茎の確保） 5. 適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上） 6. 田植え時期（早植えの防止）	
7	中干し・溝切り (遅発分げつの抑制)	・ 田植え 1か月後 からの実施（過剰生育防止） ・ 中干し期間 1か月 （コシヒカリ）の遵守
8	除草・防除 (畦畔等除草とカメムシ防除の徹底)	・ 7月上旬までの追加除草 ・ 水稻の生育ステージにあわせた適期防除の実施
9	水管理 (飽水管理の徹底)	・ 中干し後から出穂までの約 1か月 （コシヒカリ）の飽水管理 ・ 出穂から刈取り直前までの 1か月以上 の飽水管理
10	刈取時期 (適期刈取りの励行)	・ 籾の黄化程度に応じた刈取り

水稻の生育状況

生育状況（管内生育観測田平均、5月28日調査）

ゆめみづほ					コシヒカリ				
草丈 (cm)		茎数 (本)			草丈 (cm)		茎数 (本)		
本年	平年	本年 (株)	本年 (㎡)	平年 (㎡)	本年	平年	本年 (株)	本年 (㎡)	平年 (㎡)
25.3	23.7	7.5	138	211	28.5	25.9	6.2	120	135

- 株で き：茎数はゆめみづほが平年より少なく、コシヒカリは平年並みとなっています。
⇒目標茎数（ゆめみづほ：15~18本、コシヒカリは13~16本）を確認したら、中干しを開始しましょう！
- 葉齢の展開：ゆめみづほは平年並み、コシヒカリは平年よりやや遅くなっています。
- 出穂：ゆめみづほの出穂期は平年並みと見込まれています。

今月のポイント1 ゆめみづほの穂肥

目指そう! ゆめみづほの600kgどり

基肥一発肥料への追加穂肥の施用

近年の登熟期の高温による栄養凋落防止のため、追加穂肥の施用で登熟を向上させましょう。

品種	施用時期	肥料名	施用量
ゆめみづほ (平坦部)	7月8~10日 (出穂1週間前~ 走り穂が出る頃まで)	BBとれるぞう (15-5-10)	7~10kg /10a

- ※葉色が濃い圃場は施用しない。(ゆめみづほで葉色板5以上)
- ※玄米タンパク質含有率が高まるので、**出穂期以降は絶対に施用しないこと。**

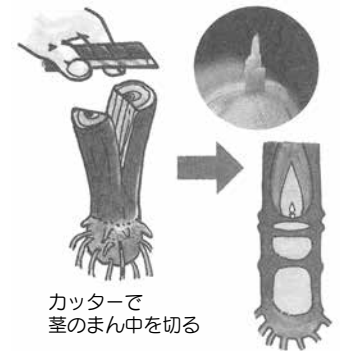
★穂肥の時期が早すぎたり施用量が多すぎると籾数が過剰になり、未熟粒の発生や倒伏の原因となりますので、必ず適期に適量を施用してください。

分施タイプ（一発肥料を使用していない圃場）

穂肥の施用時期と施肥量

1回目 BB有機入りいしかわライト550 20kg/10a	幼穂長3~5mm 出穂23日前 6月24日~27日
2回目 BB有機入りいしかわライト550 20kg/10a	止葉展開 出穂10日前 7月7日~10日

ゆめみづほ 幼穂長 3mm (出穂20日前)



注) 幼穂長を確認してから穂肥を施用しましょう。

**ゆめみづほ
1回目穂肥時期**
(出穂20日前の標準的生育)

草丈 50~55cm
茎数 30~35本/株
葉色 4.0~4.2

※葉色は、営農の手引き裏表紙の葉色見本をご参考下さい。

裏面に続きます

「ゆめみづほ」の一俵增收! 一発肥料でも穂肥を

病害虫防除は遅れないように確実にいきましょう!

今月のポイント2 コシヒカリの登熟向上対策 ⇨営農の手引き49ページも参照ください

珪酸加里プレミア 30kg/10aまたは PKけいさん特号 40kg/10aを
 まだ施用していない方は早めに施用しましょう。(6月15日～20日まで)
 ○「けい酸パワーコシー発くん」を施用した圃場には散布する必要はありません。

今月のポイント3 乳白粒発生防止対策 ⇨営農の手引き12ページも参照ください

～幼穂形成期から出穂後3週間までの水管理は間断通水で～
 稲は、幼穂ができ始めてから出穂後3週間までの間に最も水を必要とします。
 (幼穂形成期=ゆめみづほ；6月30日頃、コシヒカリ；7月10日頃)
 中干し後は3日間隔の間断通水を行い、土壌表面が常に湿った状態に保ちましょう。

今月のポイント4 カメムシ対策 ⇨営農の手引き11、52ページも参照ください

- ①カメムシの生息密度を下げるため、畦畔・農道等の除草を行いましょう。
 →刈った草が用排水路に入らないように注意しましょう。
- ②7月上旬までに仕上げ除草を実施し、中旬以降の草刈りは行わないようにしましょう。
 →7月10日以降の草刈りはカメムシ類を水田内に追い込むことになります。

今月のポイント5 稲こうじ病の防除対策 ⇨営農の手引き52ページも参照ください

止め葉が出るまでに「Zボルドー粉剤DL」を4kg/10a散布してください。
 散布時期は出穂の14～10日前です。(早生：7月6日頃、コシヒカリ：7月中旬)
 ○常発地や過去3年以内に発生した圃場では、必ず継続して散布を行ってください。
 ○玄米に混入すると規格外となります。

今月のポイント6 イナゴ対策

昨年、イナゴが発生した地区については「トレボン粒剤」を2～3kg/10a散布してください。
 6月中旬～7月中旬の散布が最適です。(湛水状態で散布してください。)

トータルコスト低減運動

No.	項目	具体的なコスト低減の要因	概算低減率
労働費低減	1 畦畔管理時間の削減	除草剤、抑草剤を組み合わせた畦畔管理による作業時間の削減	畦畔除草作業効率30%
	2 カメムシ防除タイミングの最適化	発生予察に基づく臨機・適期防除、畦畔除草の徹底	防除作業効率10%
生産性向上	1 最適な施肥手法	肥料の種類、施肥体系の見直しや早生品種の追加穂肥(とれるぞう)による収量の向上	収量向上
	2 水管理の徹底	生育状況と生育環境に適した水管理の徹底による品質の向上	品質向上

ゆめみづほ現地講習会日程

開催日	曜日	開催時間	開催場所
6月25日	金	18:00～	JAグリーン前

◎開催内容について

- 1. ゆめみづほ1俵増収のポイント
- 2. コシヒカリの本田雑草対策のポイント
- 3. カメムシ(斑点米)対策のポイント
- 4. 早生品種の穂肥診断と今後の管理について

※今年は1ヶ所の開催となりますので、ご了承ください。

水稻栽培履歴への記入確認をお願いします。

◎営農に関するお問い合わせはJA(☎288-7555)、県央農林総合事務所(☎239-1751)におたずねください。